

竹島先輩の思い出

酒見 紀成

竹島先輩は私より八歳年上だった。だから、私が広大の修士課程に入学したときは、とっくに卒業されており、修道大学のドイツ語の先生をしておられた。当時は、関本先生が教授、吉川先生が助教授の時代で、まだ年に一回、「広大言語」の卒業生の集りが開催されていた。もしかしたらそこで先生と知り合ったのだと思う。先生の卒論のテーマは「ギリシア語の冠詞に就いて」であり、私も卒論では新約聖書の名詞句について扱ったので、何か質問することがあったかも知れない。というのは、私が博士課程に進学したときに、先生から修道大のドイツ語の非常勤講師を依頼されたからである。最初の日、先生の部屋でミルクのたっぷり入った紅茶をご馳走になったのを今でも覚えている。(竹島先輩は私が50歳を過ぎても「酒見君」と呼ばれるのが常だった。)

竹島先輩は浮田さんと共に平成元年にギリシア語・文学研究会を旗揚げされた。会長は関本先生だった。この会は平成7年に「日本ギリシア語ギリシア文学会」に名称変更してからも、年に一回、小規模ながらも学会を開催し、『プロピレア』という機関誌も発行してきた。ところが、竹島先輩がなくなってから、活動が鈍ってきてしまった。昨年は学会も開かれず、機関誌も出なかった。今回、19号が出せたのは、以前事務局を担当していた橘君(現在の勤務地は台湾)と佐藤(旧姓高橋)さんが「集まっている原稿だけでも出そう」と思い立ってくれたからである。

竹島先輩は広大で文学部開講のギリシア語を担当されていた。それで、定年でお辞めになるとき、私に非常勤で担当してくれないかと仰った。私としてはギリシア語は趣味程度にしかやっていないので、「つなぎ」のつもりでお引き受けした。テキストは竹島先輩と同じもの、水谷先生の『古典ギリシア語初歩』を使った。今、その時のノートを見ると、葉書が二枚出てきた。一枚是水谷先生に質問したもの。もう一枚は竹島先生に質問したもので、このように書かれ

ている。

残暑見舞状ありがとう。

「大きな荒野」で良いです。ヘレニズム王朝時代の都市国家は皆が豊かになり、現在の日本と同様、少子化現象が起り、子供の姿は見られなくなり、閑散としていたのです。

断定されるところが竹島先輩らしく、懐かしい。そして三年後、私も担当をギリシアに四年留学した経験のある佐藤さんに代わってもらった。

竹島先生、本当にお世話になりました。